

vol.10

2008.10.10

## MONTHLY REPORT

マンスリーレポート



● がんコンソーシアム参加がん診療連携拠点病院  
■ 関西大学がんセンター

### 愛媛大学

愛媛大学大学院医学系研究科  
学際系大学院チーム

TEL (089) 960-5868

### 高知女子大学

高知女子大学学生課  
大学院部局

TEL (088) 873-2157

### 四国がんセンター

TEL (089) 999-1111

### 岡山大学

岡山大学大学院医学系研究科  
学際系大学院部

TEL (086) 235-7986

### 高知大学

高知大学医学部学生・研究支援課  
大学院教育担当

TEL (088) 880-2263

### 香川大学

香川大学医学部学務室  
(入試担当)

TEL (087) 891-2074

### 徳島大学

徳島大学医学部 医学部事務  
事務局学務課大学院部

TEL (088) 633-9649

### 川崎医科大学

川崎医科大学学務課  
教務係

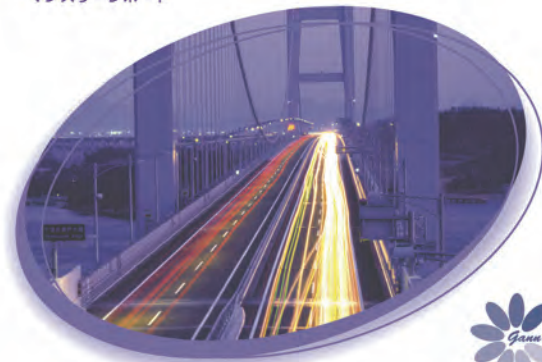
TEL (086) 464-1012

### 山口大学

山口大学医学部学務課  
大学院教務係

TEL (0836) 22-2058

<http://www.chushiganpro.jp/>



Mid-West Japan  
Cancer Professional Education Consortium

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

## 徳島大学におけるがん緩和とケア研修会に参加して

徳島大学 薬学部医学生命薬学専攻 M1 田 蔭 美 歩



今般、中・西・四国広域がんプロ養成プログラムの一環として、平成20年8月23、24日の二日間、徳島大学において「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」が行われました。薬学部の大学院生として参加させていただいたので、その概要を報告します。

## 8月23日(土)

研修メンバーの随分は医師49名、薬学部2名、看護1名の総勢52名の参加でした。この日、最初に行われたのは全人的緩和ケアについての要点的講義でした。午後からはグループ学習による症例検討を行いました。まず、疼痛の評価シートが配られ、がん性疼痛を持つ患者を評価するための必要な情報を患者さんご自身から引き出しました。そのあとがん性疼痛に対する治療と処方薬を実施し考え記録し、最後のロールプレイでは医療従事者を扮する際に患者さんの誤解を解き、副作用と対策の説明を行いました。

## 8月24日(日)

二日目は呼吸器病、消化器症状や精神症状に対する緩和ケアについての講義がありました。午後からは、患者1例としてのビデオを視聴した後、内容を検討し、患

者さんにがん治療の思い知らせを伝える練習を4人1組(医師、患者と家族、評価者)のロールプレイで行いました。

## 今回の参加を通して学んだこと

告知や治療の選択を行う際の患者への説明は重要だと感じました。ペナルティの減は足りたので、非常にスムーズにロールプレイを行っていました。まるで俳優のように演技をされていたのが印象的でした。

がん患者さんだけでなく家族への精神的なケアも大切です。患者さんの気持ちや考えながら説明を行い疑問に答えることは当たり前ですが、今回の研修に参加し、その難しさを知りました。

私たち薬剤師は直接患者さんにかぶる機会が多くはありませんが、薬学指導で今回の実習を受けさせると思いましたが、患者さんが安心して治療を受けられるよう薬学専攻について把握し、副作用に関する情報提供を行い、薬の正しい知識を提供しなければならないと改めて感じました。

また、がん性疼痛緩和において積極的薬学やオピオイドローテーションチーム医棟の一員として医師や看護師と連携をとることが必要とされているなかで、大変有意義な実習となりました。

## ごあいさつ

当コンソーシアム事務局では、講演会、海外研修、学生発表などの連絡を目的としたマンスリーレポートを発行しています。

本プランは、中国・四国8つの大学が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域の28のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域に亘るがん専門職を送り出すプログラムです。がんに関わる多職種専門職が有機的に連携し、チームとしてがん診療ならびに研究にあることができるよう職種の共通コアカリキュラムの履修を出发点として教育研修を行います。また、国内外のがんセンターと連携し指導的ながん専門医療人養成のためのファカルティ・ティベロップメントを運動させ、がん専門職養成の教育能力を強化します。こうして専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけたがん専門職が数多く輩出されることにより、地域におけるがん治療の均てん化、標準化が期待されるとともに、臨床研究の活性化が期待されます。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局



中国・四国全域に広がる拠点病院  
 共同実施機関事務局の協力を得て、各拠点病院、コンソーシアム事務局が連携して実施される

## 趣旨・組織

がんは、わが国の死亡第1位の疾患ですが、がんを横断的・集学的に診療できる専門家が全国的に少なく、その養成が急務とされています。また、近年の高度化したがん医療の推進は、がん医療に習熟した医師、薬剤師、看護師、その他の医療技術者等(コメディカル)の各種専門家が参画し、チームとして機能することが何より重要です。そのため、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医師及びがん医療に携わるコメディカルなど、がんに特化した医療人の養成を行うため、大学病院等との有機的かつ円滑な連携のもとに行われる大学のプログラムが「がんプロフェッショナル養成プラン」です。

## 緩和医療専門医養成コース新入生、がんプロへの思いを語る

## 香川大学



緩和医療専門医養成コース大学院生と教員  
2009年9月10日、大学院修了後、講義室で

平成20年度、香川大学大学院医学系研究科では、緩和医療の専門医を取得し、中国四国地区の緩和医療を担う人材を育成する中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムの緩和医療専門医養成コースに5名の医師が入学しました。各先生方の自己紹介と大学院での抱負を述べてもらいました。

## 富脇 有紀さん

香川大学麻酔科講座に所属しております。富脇有紀と申します。このたび、香川大学大学院緩和医療専門医養成コースに入学させていただきました。このように学ぶ機会を与えていただいたことを、心より感謝しております。平成8年に卒業してから13年間、主に手術室での麻酔業務に従事し、急性期の救命措置・急性痛に対応する日々を送ってまいりました。しかし今後は、急性期だけではなく、長期的・全人的治療を学び、麻酔科医として緩和医療に貢献できるよう努力していきたいと考えております。ご指導の程、よろしく申し上げます。

## 丸岡 敬幸さん

平成元年に香川医科大学 第一内科に入局し、リウマチ膠原病グループに入りました。研修医の頃に救急とターミナルができる医師を目指して早20年が過ぎました。やっと緩和医療専門医の資格ができました。そこで年齢も考えずに大学院生になりました。勉強した



ことを現場に活かせるよう頑張ろうと思います。香川に緩和医療が広がることをめざして！  
自己紹介：那珂総合病院 内科助産、趣味：ジグソーパズル音楽、観劇、読書、スイング、ダイビング、庭造り



## 大橋 英司さん

緩和医療専門医養成コースの大橋です。個人診療所で、内科・腎臓科を中心に、一給外系、内視鏡検査及び在宅診療を行っております。今回大学院受験に挑戦しようと思ったきっかけは、「今後増えるであろうと思われるがん患者様の在宅死に、少しでも役に立てる事があれば」と考えただけです。現在、年間10〜15名の在宅での看取り及び常時10〜20名の患者様に在宅診療を行っておりますが、必ずしも全ての方に、100%満足できる看取りが、できていたわけでは有りません。今でも学ぶ機会が少なかつた。全人的な緩和医療を習得し、それを患者様に少しでも返す事ができたいと思っております。



## 光岡 妙子さん

日ごろは、緩和ケア病棟に勤務しています。出身大学は高知医科大学、出身は高知です。バレーボールを強くことが趣味です。このたび、縁あって、香川大学医学部大学院緩和医療専門医養成コースに入学しました。広く、多くの方々を知り合せて、刺激になります。緩和ケアに携わろうようになって、よい機会に恵まれたので、がんを積極的に学び、臨床に役立てたいと思います。よろしくお願いたします。

## 山上 あゆむさん

今年の4月に緩和医療専門医養成コースの大学院生となりました。

私は、香川大学医学部を卒業し、現在は、香川大学の総合診療部でお世話になっています。大学院という頃は、中には緩いものと考えていましたが、医局の先生方の励めもあり、また、緩和医療について、様々な専門分野からの講義を聴いてみたく入学することを決めました。子育て中なので、ただでさえ、周りの方にご迷惑をおかけしているのですが、それでも勉強をさせて下さっている医局の先生方に感謝しています。



## 中国・四国広域がんプロ養成プログラム 平成21年度 学生募集スケジュール

| 大学名    | コース名         | 出願期間  | 試験日   | 合格発表  | 問合せ   | 電話  |               |
|--------|--------------|---|---|---|---|---|---------------|
| 東洋大学   | 専門医師養成コース    | 腫瘍内科系専門医養成コース<br>腫瘍外科系専門医養成コース  | 20.12.10(水)～21.1.6(火)   | 21.1.20(火)  | 21.2.20(金)  | 医学系研究科学部大学院チーム  | (089)960-5868 |
|        | 専門医師養成コース    | 腫瘍内科系専門医養成コース<br>放射線治療専門医養成コース<br>腫瘍外科系専門医養成コース                         | 21.1.9(金)～21.1.16(金)  | 21.1.28(水)  | 21.2.23(月)  | 医歯薬学総合研究科等学務課大学院係   | (086)235-7986 |
| 南山大学   | コスメティカル養成コース | がん専門薬剤師養成コース  | 博士前期課程<br>21.1.5(月)～21.1.9(金)<br>博士後期課程<br>21.1.29(水)～21.1.30(金)  | 博士前期課程<br>21.1.22(木)<br>博士後期課程<br>21.2.10(火)                                    | 博士前期課程<br>21.1.30(金)<br>博士後期課程<br>21.2.27(金)                                    | 医歯薬学総合研究科等薬学系専攻室教務学生係   | (086)251-7923 |
|        |              | CNS(がん看護士)コース<br>医学物理士放射線治療士養成コース<br>臨床腫瘍内科系専門医養成コース<br>臨床腫瘍外科系専門医養成コース | 終了  | 終了  | 20.10.23(木)   | 医歯薬学総合研究科等学務課教務第二係  | (086)235-7984 |
| 香川大学   | 専門医師養成コース    | 臨床緩和医療専門医養成コース<br>臨床腫瘍外科系専門医養成コース                                       | 21.1.5(月)～21.1.9(金)   | 21.2.12(木)  | 21.3.6(金)   | 医学部総務課学務室(入試担当)   | (087)891-2074 |
| 川崎医科大学 | 専門医師養成コース    | 腫瘍内科系専門医養成コース<br>腫瘍外科系専門医養成コース  | 20.10.10(金)～20.10.23(木)   | 20.11.4(火)  | 20.11.12(水)   | 学務課教務係  | (086)464-1012 |
| 高知大学   | 専門医師養成コース    | 腫瘍内科系専門医養成コース<br>放射線治療専門医養成コース<br>腫瘍外科系専門医養成コース                         | 21.1.6(火)～21.1.9(金)   | 21.2.14(土)  | 21.3.9(月)   | 同豊学務課 大学院教育担当   | (088)880-2263 |
|        | コスメティカル養成コース | がん専門薬剤師養成コース<br>医学物理士養成コース  |   |   |   |   |               |
| 高知女子大学 | コスメティカル養成コース | CNS(がん看護士)養成コース   | 終了  | 終了  | 終了  | 学生課大学院担当  | (088)873-2157 |
| 徳島大学   | 専門医師養成コース    | がん薬物療法専門医コース<br>放射線治療専門医コース<br>緩和療法専門医コース<br>腫瘍外科系専門医コース                | 20.11.17(月)～20.12.1(月)  | 20.12.9(火)  | 20.12.26(金)   | 医学・歯学・薬学部等事務部学務課大学院係  | (088)633-9649 |
|        | コスメティカル養成コース | がん専門薬剤師コース<br>がん専門看護士コース<br>医学物理士コース                                    | 【博士前期課程】<br>一般入試<br>21.1.5(月)～21.1.9(金)<br>【博士後期課程】<br>第1次:20.10.27(月)～20.11.4(火)<br>第2次:21.1.5(月)～21.1.9(金)  | 【博士前期課程】<br>一般入試<br>21.1.20(火)<br>【博士後期課程】<br>第1次:20.11.18(火)<br>第2次:21.1.20(火) | 【博士前期課程】<br>一般入試<br>21.2.16(月)<br>【博士後期課程】<br>第1次:20.12.19(金)<br>第2次:21.2.16(月) | 医学・歯学・薬学部等事務部学務課第三教務係   | (088)633-7247 |
| 山口大学   | 専門医師養成コース    | 臨床腫瘍専門医コース<br>放射線治療専門医コース<br>腫瘍外科系専門医コース                                | 博士前期課程・博士後期課程<br>21.1.5(月)～21.1.9(金)<br>医学博士課程<br>21.1.5(月)～21.1.9(金)<br>博士前期課程・博士後期課程<br>21.1.5(月)～21.1.9(金) | 21.1.20(火)  | 21.2.16(月)<br>21.2.16(月)<br>21.2.16(月)  | ※博士後期課程、医学博士課程の<br>平成21年4月入学における<br>[出願資格事前審査申請受付期間]は<br>平成20年11月17日(月)～11月19日(水)<br>医学部学務課大学院教務係 | (0836)22-2058 |

※平成21年度の冬季の学生募集は上記のとおりですが、追加募集を実施する場合がありますので各大学までお問い合わせください。

## Johns Hopkins Singaporeにおける研修報告

## 【はじめに】

私は腫瘍、食道癌術後患者を主に診療し、化学療法と緩和治療を担当していますが、ウエスタンスタイルのがん診療の見学経験はありません。今回、がん診療における外来、入院のマネジメントと若い医師の教育システムを学ぶため、Johns Hopkins Singapore International Medical Centre (JHSIMC)にFD研修を受けましたので報告します。

## 【シンガポールの医師制度】

シンガポールはイギリスから独立しており、医師制度はUK medical systemを採用しています。USAではResident Physician, Fellow Physician, Attending Physicianの順に上がっていきますが、UK systemではMedical Officer, Registrar, Consultantの順に上がっていきます。Medical schoolを卒業した後、medical officerとして6領域を研修すると、Registrarにステップアップして1つの専門領域を3年間研修し、consultantとなるための専門試験を受けることができます。

## 【JHSIMCの概観】

JHSIMCは約1000床のTan Tock Seng国立病院(シンガポールでは2番目に大きな病院)の最上層13階に位置し、約200床のprivate inpatientベッドと下層13階に約200床のprivate inpatientベッドを持っており、また1階にはprivate outpatient clinicを持っています。

JHSIMCでは6名のMedical Officer, 1名のRegistrar, 4名のConsultant, 1名のCEO & Professorの12名で構成されています。Public clinicでは基本的にはRegistrarから外来担当ができるようになり、Medical OfficerもConsultantの代役を担当します。しかし、Private clinicではConsultantのみが外来担当できるようになっています。外来患者の60%はシンガポール、40%は他国から受診しています。他国の内30%がUAEから来ており、シンガポール政府とUAE政府が提携し、出入国の相談はInternational patient liaison officer(IPLO)が管理し、通



JHSIMCスタッフ

訳も兼ねています。UAEからの患者が多いため、7人の通訳がJHSIMCで働いています。以前はUAEの患者はUSで治療を受けていましたが、9.11以降はUAEで治療を受けるようになったため、シンガポールに来るようになったようです。



private病棟入り口

## 【JHSIMCの若手医師教育について】

若手医師は卒業後3年目までの研修医であるMedical Officerと、Medical Officer研修終了後、一年コースで3年間研修するRegistrarで構成されています。前回のJHSIMC研修で述べ、対症療法がRegistrarの教育制度について詳しく紹介しましたが、今回はMedical Officerの教育制度に焦点を絞って述べたいと思います。JHSIMCは6名のMedical Officerがいますが、それぞれ異なる3つのパートを担当しています。6ヶ月の研修で一通り研修できるようなローテーションを行うようにプログラムされています。

1つ目のパートはPrivate入院患者の管理とConsultantがPublic外来をしているときの代診の担当です。Private入院患者の管理は化学療法レジメ決定以外の業務を担当します。毎朝Professor、あるいはConsultantと回診し、観望点と解決方法についてディスカッションします。ディスカッションを通して自分にはない知識をConsultantから得ていきます。普段は20人から30人の入院患者がいるのですが、今回はイスラムのラマダンと重なっていたため入院患者数は10名程度でした。ConsultantのPublic外来業務を代診することも仕事の一つですが、ひとりで代診する毎に経過をまとめて治療計画し、Consultantのもとに向向き、戻して自分が立てた計画についての許可をもらいます。許可を得るには十分な準備が必要で、どのレジメにするか、そのレジメにする理由を述べるということが出来なければ許可を得ることができなくなっています。Consultantに毎回許可をもらう過程で

理論武装が必要になってくるため、この過程で理論構築がなされていくものと考えられました。

2つ目のパートはPublicの化学療法患者の管理を担当します。11階にpublic向けに化学療法用のベッドは5つあり、主にハイリスク患者を入院させて治療します。5名しか入院患者がいなくてもかなり時間的には余裕があると感じましたが、基本的にはPrivate入院患者向けに回診所見をConsultantに報告して治療方針を決めます。化学療法レジメについてはConsultantが決めるので理論武装する訓練は覆われないが、実際の治療における合併症対策が鍛えられます。

3つ目はPublic各科から寄せられる患者の相談担当です。これはblue letter (依頼書)のみでブルーレターとよんでいられる)をもとに、ほぼ1日中院内を巡回します。Blue letterが響くとカルテチェックし、要約してConsultantに提示し、午後にはConsultantとともに回診します。そこで何がConsultantが化学療法が必要かを患者に説明しますが、レジメについてはConsultantが決するため、見て学習する教育のように感じました。実際は全部で約40人がリストに挙げられているため全員を回診することはできませんが、特に初診と問題があったときは回診して観望点をリストアップし、Consultantにつなぐ仕事をしています。この仕事は患者管理という点において研修医ながら大事なパートであると感じました。

## 【JHSIMCのPrivate外来について】

Private外来はConsultantのみが担当しますが、どの診療とどのパートとアポイントを確保したかがある部屋でした。化学療法室は12ベッドがあり、すぐ隣の部屋に薬剤室とミキシング室が併設されており、処方箋発行からミキシング、患者への薬液投与までスピーディーで効率的であると感じました。診療時間むとありあたり30分から60分かけて丁寧に説明していました。



化学療法室

## 【まとめ】

JHSIMCの教育プログラムは月毎の役割分担があり、4週間単位で組み立てられているので、非常に効率的であると感じました。特に、外来診療の際は、診療後に計画を立てて、毎回毎回コンサルトに今後の治療方針について相談し、議論を重ね、アドバイスをもらって観望点を解決していく姿は印象的でした。これは日本のある機関に目標を達成できたかどうかだけを判定基準とするのとは大きく異なる、プロセスを重視していると感じました。毎回コンサルトと議論を重ねることによってタフな環境構築がなされていくのと考えられました。帰国日にFI開催と重なり、道路封鎖や交通渋滞とちよとしたハプニングも起こりましたが、今回の研修は、効率よく見学プログラムを組み立てられたため、イギリス方式の教育システムに沿ったJHSIMC流の若手医師育成プログラムを短期間に効率よく見学でき、非常に有意義でした。



シンガポールの夜景

F1 in Singaporeの観望点



private病棟からみたシンガポールの街

## 【最後に】

本研修に参加する機会を与えて下さった中国、四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムの運営スタッフとJHSIMCのスタッフの皆様は心より感謝いたします。

参加メンバー 文真 岡山大学 / 櫻岡 一史

## 川崎医科大学

### 川崎医科大学大学院 医学研究科



学長 堀木 宏明

平成19年4月、がん対策基本法が施行された。がんは今や国民病であり、がん患者の声を受けて策定された本法は、がんの予防・早期発見やがん診療の均てん化およびがん研究の促進を基本施策としている。厚生労働省より、がん診療の均てん化に向けて地域がん診療連携拠点病院の指定などのがん対策の基盤整備が進むなか、文科省より、がん専門の医療従事者を教育するプログラムとして公募されたのが「がんプロフェッショナル養成プログラム」である。川崎医科大学は、岡山大学を中心とした中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムに参加し、「腫瘍内科系専門医養成コース」および「腫瘍外科系専門医養成コース」の2つを開設している。本年度1名の大学院生が入学し研究生活を開始すると同時に、がん専門医取得に向けた知識と技術および臨床経験の蓄積に、日々研鑽を積んでいる。

川崎医科大学大学院医学研究科は昭和51年4月に設置されて以来、名実ともにその陣容を整え充実されてきた。最新の研究機器が配備された超

級機房・免疫センターをはじめ8つの研究センターが有機的に機能し、世界に発信できる最先端の研究成果が重ねられてきた。これらの十分な研究環境と同時に、川崎医科大学は1182床の附属病院を有し、充実した手術部と放射線診断・治療部門、外来化学療法を実施する遠隔治療センターおよび緩和ケアチームを備え、十分な症例数を経験可能である。院内に設置されたがんセンターでは各種cancer boardが活発に機能し、治療方針の決定やプロトコールの管理、診療パスの策定、がん登録を統括し、がんセミナーやケースカンファレンス、市民公開講座を開催すると同時に手厚い患者支援を実施している。専門性を高めるなかにもチーム医療の実践を学ぶ環境が充実している。

このような川崎医科大学大学院医学研究科の実績と附属病院実績および「がんプロフェッショナル養成プログラム」の理念が融合・調和し、地域のがん患者に貢献できるすぐれたがん専門医療人の育成・輩出に貢献できることを確信するとともに、本プログラムの継続的な発展に大いに期待したい。



## 川崎医科大学附属病院



病院長 角田 司

川崎医科大学附属病院は昭和48年12月に開設し、現在1,182床の地域基幹病院として、医療の発展と患者さまへのサービスに努めています。教育病院でもあり、平成6年4月には厚生省より高度医療を提供する特定機能病院の承認を、さらに、平成17年4月には日本医療機能評価の認定を受けています。世の中の少子高齢化と共に疾病構造も、医療のあり方も変わってきました。特に、我が国における死因の第一位はがんであり、年間32万人強の方が亡くなっていますので、その対策は急務です。当院では、がん医療の関係診療科の横のつながりの強化と、トータルとしてのがん医療の質の向上、医療従事者の専門的知識・技術の研鑽と教育・研修、がん登録の徹底と充実、送える患者さまの支援体制の強化を目的として、平成19年4月から臨床腫瘍科を立ち上げ、さらに同年8月に「がんセンター」を設置しました。そして医療従事者への教育・研修のためのCase ConferenceやCancer Seminarの企画立案、地域の皆様への情報提供のための市民公開講座をは

じめ、がんに関する様々な情報を発信しています。さらに、平成20年2月8日、厚生労働大臣から「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。このたび、「がんプロフェッショナル養成プラン」の中で、がんプロ大学院生の養成を通して、地域におけるがん治療の均てん化、標準化の達成に尽力したいと考えています。



## がん診療連携拠点病院

### 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター



病院長 高 崎 成光

四国がんセンターは平成18年4月1日より松山市南梅本町の新病院にて診療を開始しました。新病院は従後平野の東側に位置し、南にはお血を伏せたような平らな緑地を持つ古墳(1271m)、東には西日本最高峰の石鎚山(1982m)が望み、遠く西には瀬戸の島影に沈む夕日の美しい伊予灘を見ることが出来ます。

当院は昭和41年に国立松山病院にがんの診療機能を付与するため四国地方がんセンターが併設され、がんの国立に伴い昭和54年にがん診療機能を強化して国立病院四国がんセンターへと名称を変更しました。名実ともにがん専門病院に衣替えしました。平成14年3月に全国に先駆けて地域がん診療拠点病院の指定を受け、平成19年1月には愛媛県がん診療連携拠点病院に指定替えとなり、がん診療連携拠点病院6施設ともに愛媛県のがん対策推進の中心的役割を担っております。

新病院は、「すべては患者さまのために」を行動の基本として、がんの早期発見から終末期医療までがん診療全般に携わっています。病床は405床(緩和病床25床)です。標準病室の4床室は大きな窓からたっぷり光を採り込み、廊下側のベッドにも光が届くよう窓を配しています。また、クローゼットで間仕切りし、4床室でありながら

ライバーに配慮した個室感覚の機能的なスペースとなっています。

診療には診療科の垣根を取り除いた機器共有チーム医療で臨み、病棟も臓器別とし、各病棟で手術・化学療法・放射線療法が可能な体制になっております。がん化学療法は可能な限り外来通院治療とし、3名のがん化学療法認定看護師を配置した通院治療室と、これを支援する院内常設施設の新設により、患者さまとその家族の利便性を重視しています。また、PET-CTを国立病院機構としては初めて導入し、日常診療でがんドックにフル回転の状態です。医師全員が臨床研究部に所属し、多忙な診療の中で臨床研究に取り組みしております。厚生労働省がん研究助成金、厚生労働科学研究費等による公的研究には主任研究者3名を含め、多くの医師が担い手として協力者として参加しております。また、新規抗がん剤開発のための治験やがん標準的治療法の確立のための多施設共同研究にも積極的に取り組んでおります。治験の実施契約数・金額は国立病院機構で常にトップであり、本邦の新規抗がん剤開発はほとんど関与していると誇るとも過言ではありません。がん医療の最前線での診療や研究において、さらなる飛躍を目指しています。



## がん診療連携拠点病院

### 高松赤十字病院



病院長 田 邊 正博

高松赤十字病院は県都高松市の中心部に立し、昨年(平成19年)、創立100周年を祝賀した、歴史と伝統を誇る589床の総合病院です。高松市およびその周辺と小豆島地区の二次医療圏を中心に、県内全域から来院される外来患者数は年間のべ約28万人。そのうち毎年約8,500人が新規入院患者として診療を受けておられます。

昨年度の外來患者の約18%(52,000人)、入院患者の約20%(1,700人)ががん疾患でした。悪性腫瘍年間手術総数は約730件を数え、のべ約4,200人に化学療法を施行しました。機器の老朽化により昨年度200人に満たなかった放射線体外照射も、平成20年度前半には装置を更新、強化して、今後の症例増加に備えています。

平成19年1月、がん診療連携拠点病院の指定を受け、県下の他の4つの拠点病院と共に高度ながん診療に積極的に取り組むべく努力しております。

平成19年5月からは、フルオーダー電子カルテシステムおよびPACS(放射線画像のオンラインシステム)を導入し、IT化による医療安全と患

者サービスの向上を実践すると同時に、院内がん登録、緩和ケア、外来化学療法の推進にも力をつけています。中でも、がん化学療法は入院、外来を問わず、化学療法委員会によって嚴格に管理された完全レジメン登録制を採用し、電子カルテオーダーに連動したPDA(Personal Digital Assistance)端末による患者、薬剤、投与者の三点認証を必須行為として、その質と安全を担保しています。

機器、設備の充実もさることながら、各部門の医師、薬剤師を中心としたがんセンターボードを開催・推進すると共に、各種認定看護師、MSW、地域医療室などの連携によるがん相談支援や緩和ケアチーム活動の輪を広げ、はばき同時に指定を受けた「地域支援病院」の名に恥じぬよう、地域のがん患者の身を支えたいと願っています。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムの活動には従来にも増して積極的に参加して参りました決意を新たにしてまいりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



| 10 October | 11 November | 12 December | 1 January | 2 February |
|------------|-------------|-------------|-----------|------------|
| 1木         | 1土          | 1月          | 1木        | 1日         |
| 2木         | 2日          | 2火          | 2金        | 2月         |
| 3金         | 3月          | 3水          | 3土        | 3火         |
| 4土         | 4木          | 4木          | 4日        | 4木         |
| 5日         | 5木          | 5金          | 5月        | 5木         |
| 6月         | 6木          | 6土          | 6火        | 6金         |
| 7火         | 7金          | 7日          | 7水        | 7土         |
| 8木         | 8土          | 8月          | 8木        | 8日         |
| 9木         | 9日          | 9火          | 9金        | 9月         |
| 10金        | 10月         | 10水         | 10土       | 10火        |
| 11土        | 11火         | 11木         | 11日       | 11木        |
| 12日        | 12水         | 12金         | 12月       | 12木        |
| 13月        | 13木         | 13土         | 13火       | 13金        |
| 14火        | 14金         | 14日         | 14水       | 14土        |
| 15水        | 15土         | 15月         | 15木       | 15日        |
| 16木        | 16日         | 16火         | 16金       | 16月        |
| 17金        | 17月         | 17水         | 17土       | 17火        |
| 18土        | 18火         | 18木         | 18日       | 18水        |
| 19日        | 19水         | 19金         | 19月       | 19木        |
| 20月        | 20木         | 20土         | 20火       | 20金        |
| 21火        | 21金         | 21日         | 21水       | 21土        |
| 22水        | 22土         | 22月         | 22木       | 22日        |
| 23木        | 23日         | 23火         | 23金       | 23月        |
| 24金        | 24月         | 24水         | 24土       | 24火        |
| 25土        | 25火         | 25木         | 25日       | 25水        |
| 26日        | 26水         | 26金         | 26月       | 26木        |
| 27月        | 27木         | 27土         | 27火       | 27金        |
| 28火        | 28金         | 28日         | 28水       | 28土        |
| 29水        | 29土         | 29月         | 29木       |            |
| 30木        | 30日         | 30火         | 30金       |            |
| 31金        | 31月         | 31水         | 31土       |            |

中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアム  
第5回がん看護専門看護師コースWGW講演会

## チーム医療における がん看護専門看護師のエキスパートネス

がん医療の質向上にチーム医療が重要な課題となっています。がん看護専門看護師はチーム医療の中心的存在として、幅広い看護実践力を発揮することが期待されています。しかし、その役割や専門性を知るものが少なく、チームのなかで活動しているのが十分に理解されていないことも事実です。

中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアムでは、チーム医療におけるがん看護専門看護師の役割や専門性、チームの中での活動状況、活動による変化などについて活動していただく機会を提供します。がん看護専門看護師の活動の実践はもちろんですが、チーム医療におけるがん看護専門看護師と協働している医師、薬剤師、心理療法士それぞれの立場から、がん患者への質の高い医療を提供するための専門看護師との協働に関する取り組みやチーム医療への期待をお話しいただく予定です。

日時：2008年12月7日(日) 13:00～16:30  
会場：岡山コンベンションセンター2階レセプションホール  
岡山市駅元町14番4号 TEL:086-214-1000  
参加費：無料

<シンポジスト>  
チーム医療におけるがん看護専門看護師の専門性と活動の実態  
小笠原 利枝 氏 (横浜市立みなと赤十字病院 がん看護専門看護師)  
がん看護専門看護師との協働の実用と質疑-心理療法士の立場から  
東原 幸江 氏 (静岡県立静岡がんセンター緩和医療科 心理療法士)  
がん看護専門看護師との協働の実用と質疑-薬剤師の立場から  
小島 昌郎 氏 (横浜市立市民病院薬剤科 がん薬物療法認定薬剤師)  
がん看護専門看護師との協働の実用と質疑-医師の立場から  
北村 宗生 氏 (広島県 熊本病院緩和科 外科 緩和ケア医師)

主催：中国・四国広域がんプロフェッショナル養成コンソーシアム  
お問い合わせ先：中山 藤江和子  
FAX：086-867-5234 [info@pfn-cs.jp](mailto:info@pfn-cs.jp)  
\*参加費無料ですが、できるだけ早め申し込みにご協力下さい。

## 会議開催のお知らせ

コンソーシアム協議会  
平成20年12月5日(金) 13:00～16:00  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 管理棟3階 大講義室

カリキュラム企画運営会議  
平成20年12月5日(金) 16:00～  
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 管理棟3階 大講義室-小会議室

## 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.10

平成20年10月10日 発行

編集兼発行者

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局  
TEL 086-235-7023

印刷所

有限会社 ファーストプラン